

1 ご意見

<1> 産業界で求められる能力について

- ✓ データの利活用を企業経営に活かしてゆく為に、**データから有益な知見を導き出し**、企業／組織における**課題の解決に役立てることのできる人材**が必要である。
- ✓ 企業側の**問題を抽象化・一般化して解ける人材**が必要である。
- ✓ **企業と大学を結ぶ人材**(問題に対して、どのようなアプローチで解くかを繋げる人材)が重要である。
- ✓ 必要な能力として、**数学がキーポイント**で、それに加え**データサイエンス、ビジネスの理解、コミュニケーション力**が必要である。
- ✓ 大学教育において**数学を使って、社会課題を解決するという意識付け**が必要である。

<2> 理数系人材の供給課題について

- ✓ 企業側は、優秀なAI人材を求めているが、学生は**あまり認識していない**。
- ✓ 企業が物理・数学の人材を求めていることを**システムの的に周知**していくことが大切である。アメリカでは（Kaggleのような）コンテストを周知の機会として利用している。
- ✓ ある企業では、大学での講演などで数学人材の事例を紹介し、**企業で数学の学生が活躍できることを周知**している。（企業で活躍する数学者の姿を若者に見せることが有効。）
- ✓ 企業側には、現場をよく知っている人はいるが、データを活用できる**データサイエンティストがいない**。
- ✓ 学生時代に**データ分析の訓練を受けた者**が欧米に比べて**少ない**。
- ✓ **将来（進学、就職）に対する不安**があるため、修士や博士に進学しない。
- ✓ 日本人が力を発揮できる「見習い」、「独り立ち」、「棟梁」のような**ロールモデルの構造**（身近なところに模範となる人がいる構造）**を生かす**。

第1回意見交換会における論点概要②

<3> 産学連携の課題について

- ✓ **産学間を人材が流動すること**が必要であり、企業において、任期付きで大学の研究員を採用している事例もある。
- ✓ 大学側は、**具体的な問題やデータ**を持っていないので、企業側が将来解かないといけない**具体的な問題を学生に解いてもらう場**（**具体问题と具体データで素養を試せる機会**）を提供することが大切である。
→大学（学部、大学院）の教育プログラムの中に導入する方法もある。
- ✓ （特に地方大学において、）**企業とのマッチングの機会が少ない**ので、企業と大学とのマッチング場を提供するシステムづくりを進めてほしい。
- ✓ マッチングの場として、**「研究インターシップ」と「スタディグループ」**が有効である。
- ✓ スタディグループにおいて、**企業側から資金面で支援してもらえらる仕組み**を作してほしい。（ヨーロッパ等では、企業から金銭面で支援がある。）
- ✓ 企業と大学を結ぶ人材は育成するために、**理数系のポストクがIT企業で働けるシステム**を作ってはどうか。また、**企業の問題を理解した人が数学的な基盤を改めて勉強し直せる仕組みづくり**を構築してはどうか。（社会人ドクターのような。）

<4> その他

- ✓ 人工知能は思っている以上にオープンな技術領域で、ソースコードも理論も手に入るため、Engineの部分で差がつかない領域ではないか。**現実の制約に合わせて作っていくところ**に差がつく。
- ✓ 受け入れる企業が、**数学人材をどう活躍させるかのマネジメントが重要**である。
- ✓ 様々な活動において、単体ではなく国が支援し、**組織的に行えば変わる**のではないか。
- ✓ 文部科学省の制度によって**外国人留学生の受け入れ**を行っている。（アカデミックの増加につながる）